

503 オノマトペ

～世代による印象の違い～

1年3組1班

オノマトペとは

古代ギリシャ語onomatopii(を語源1)とし日本ではフランス語のonomatopéeから借用してできた言葉。実際の音や声を人間の言語でそれらしく表現した言葉(擬音語)や、身振り・状態、視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語で表現した言葉(擬態語)の総称。(今回はこの広義で扱う)現代語では、Aッ(サッ、パッ)、Aン(ドン)、Aー(ジュー)、ABン(ドキン、パリン)、ABAB(ピカピカ)、AッBリ(パッキリ)、AンBリなどの形がある。日本語は欧米語に比べて擬態語が豊かである。2)

1. 研究動機と目的

日常の中でよく使われるオノマトペを有効・効果的に使いたかったから。そのなかでオノマトペが人に与える印象を知りたいと思った。またオノマトペの使用頻度や使用相手についても違いがあるのか知りたかった。

2. 仮説

年齢(世代)によって感じるものが違うのではないかと。若いほど肯定的・プラスの良いイメージを持つのではないかと。若いほどオノマトペの使用頻度が高いのではないかと。

3. 方法

「アンケート」

すべての年齢に対しアンケートを行う。アンケート用紙を東高の生徒に配布(3クラス)、学校周辺で対面インタビュー形式(同じ質問をおこなう)、知り合い、Twitter、でアンケートを集計した。質問内容は右のようである。0～10代(37人)、20代(10人)、30代(12人)、40代(15人)、50代(5人)、60代(5人)、70代(6人)の計90人のアンケートが取れた。

結果

Q1 オノマトペをどのくらいの頻度で使いますか。(日常と学校・職場)

Q2 オノマトペをよく使っている人をどう思いますか。人(%)

Q3 オノマトペをよく使うときはどのような時ですか。人(%)複数回答可

Q1	よく使う	使う	あまり使わない	使わない	何も思わない	印象	家族	友達	子供	会社の目上先輩	後輩	先生	その他
10代 日常	9	16	10	0	26人(70)	分かりやすい(2)、話しやすい雰囲気、明るい人(2)、面白い(2)、表現力豊か、ユニーク、愛嬌がある、かわいい、詩的センス	26(70)	33(89)	10(27)	1(2)	2(5)	0	
学校	5	15	11	1		精神年齢が低そう(2)、語彙力が乏しい(3)、幼い(2)、あほっぽい							
20代 職場	4	4	1	0	5人(50)	ユーモア	7(70)	5(50)	6(60)	1(10)	1(10)	0	
	4	2	2	1		語彙力が乏しい(2)、がさつ・雑、幼い							
30代	7	4	0	0	8人(67)	面白い人(日常的に使っているのが大数を占めた)	10(83)	4(33)	9(75)	1(8)	2(17)	1(8)	同僚(8)
	4	3	3	0		(時と場合によってだが)伝わりやすい(2)、話を聞いて面白く感じる、表現力豊か	13(87)	11(73)	10(67)	2(13)	2(13)	0	赤ちゃん高年齢者
40代	4	6	3	1	10人(67)	つつこみたくなる							
	4	4	4	1		イメージしやすく話の内容が分かりやすい。想像力豊か	3(50)	4(66)	5(83)	0	2(40)	0	
50代	2	2	1	1	3人(50)								
	1	2	1	1									
60・70代	2	5	2	1	4人(36)	お人よし、お堅い人はつかわないイメージ、良い、よくわかる	3(27)	5(45)	3(27)	0	0	0	
	0	3	2	2		よく使っている人はもう少しほかの言い方がないのかと思う							

Q4 よく使っているオノマトペは何ですか
Q6 使いたいと感じるオノマトペは何ですか
Q7 自分が伝えたいオノマトペの意味や伝えなかったニュアンスが伝わらなかったことはありますか。

Q5 不快に感じるオノマトペは何ですか
～10代実際に耳で聞くと気持ち悪いもの(2)、下品なもの、など
20代ねちゃねちゃ、イライラ、キュン、高い音を出さないと出ない音のオノマトペ
30代 イライラ(2)、くちゃくちゃ
40代 前後の文章による、繰り返して使うこと、お金を連想するもの、嫌悪・怒りについて、
50代 不快な音のオノマトペ
60・70代 セイセイ、めちゃめちゃ、ベタベタ、ぐしゃぐしゃ、ぺちゃぺちゃ

5. 考察 (Q4～Q7の結果も含む)

10代 オノマトペを使っている人に対し否定的な意見と肯定的な意見が両方見られた。明るい表現のオノマトペを使っている場合が多くQ5で挙げられた不快な表現といわれるオノマトペは使っていない。耳で聞くと嫌な音のオノマトペは嫌だという意見が多く、心の不快さよりぐちゃぐちゃ・べたべたといったオノマトペのほうが嫌な様子。しかしほかの年代よりオノマトペを使っていない

20代 印象には10代と変わらず語彙力の不足という意見があった。不快なオノマトペの中には10代で使いたいという意見があった「キュン」が含まれていて、高い音が嫌だという意見があった。10代よりも使う頻度が高い。

30代 イライラといった心の不快さを表すものが嫌だという意見があった。使用頻度が1番多い。

40代 印象では、オノマトペを使うかではなく文脈や状況によるという意見が多い。より日常的なオノマトペや擬声語を使っている。オノマトペを繰り返し使う人に不快感をもつ。

50代 オノマトペに悪いイメージを持った人はいなかった。オノマトペを使う頻度は年下の年代よりも少ない。

60・70代 悪い印象を持っている人は少ない。頻度は少ない

全体 〈使いたい・不快なオノマトペ〉上品なもの・明るいものが多い。年代ごとにばらつきがあるがなしという意見も多かった。〈頻度〉どの世代も多いが20～40代が多かった。

〈相手〉家族や友達が多い 〈印象〉話しやすい人、表現力がある。面白い人、子供っぽい人、語彙力が乏しい、あほっぽいという印象を持たれやすい。〈誤解〉30代以下に10人いた。

6. 今後の課題

なぜ肯定的と否定的に分かれるのか。また、それぞれどのような人物を思い描いているのか。不快と感じるオノマトペを、別の言葉で表すと不快さは減るのか。について調査する。

7. 引用文献

- 1) 新語時事用語辞典
- 2) 角川類語新語辞典

8. 謝辞 本研究を進めるにあたって、たくさんの方にアンケート・インタビューに協力していただいた。ここに記して謝意を表す。